

## 令和 4 年度第 1 回都島区高齢者地域包括ケアシステム推進会議 (みやこねっと) 作業部会 実施報告

### 1. 検討課題

複合課題のあるケースの支援

### 2. めざす仕組み

本人家族の精神疾患に対し、精神科の医師の協力を得ながら、専門家に相談できる都島区のシステム作り

### 3. 構成委員 (☆印 部会長)

団体名	氏名
都島区医師会	忌部 周 ☆
都島区薬剤師会	横井 裕一
都島区社会福祉協議会	紙屋 なつみ
都島区居宅介護支援事業者連絡会	山田 美香
都島区在宅医療・介護連携相談室	竹下 美代子
都島警察署	山野 剛志
みやこじま訪看ネット	長谷川 泰子
障がい者基幹相談支援センター あるる	樋口 直倫
都島区地域包括支援センター	小林 明子
都島区北部地域包括支援センター	林 智子
都島区役所〔保健福祉センター〕健康推進担当	坂田 佳代
都島区認知症強化型包括支援センター	市川 秀子

## 4. 実施内容

### 【第4回】令和4年4月28日（木）14:30～16:00

#### 検討している3つの仕組み

- ① 区事業「医師による精神保健福祉相談」
- ② 支援者を支援するチーム作り（精神科医師なし）
- ③ 精神科医を含む専門家によるチーム

- \*① 区事業「医師による精神保健福祉相談」事業説明と周知方法について検討
- \*③ 「精神科医を含む専門家によるチーム」について検討

#### ～主な意見～

##### \*① 区事業「医師による精神福祉相談」について

- ・区役所に精神福祉相談が可能な窓口があることを知らない、知っていても使い方がわからない、どんな相談ができるか知らない。  
区民への効果的な周知方法について検討が必要である。
- ・大阪市のホームページの活用や区役所以外の周知についてどこまで周知可能かの検討も必要である。

##### \*② 「支援者を支援するチーム作り（精神科医なし）」について

- ・支援者間の情報共有や支援の方向性に迷った時に多職種の支援者に相談できるしくみ作りも同時に必要ではないか。

##### \*③ 「精神科医を含む専門家によるチーム」について

- ・費用の捻出、精神科医師の協力が難しく、往診している医師も少ないため、現実的に精神科医を参画した支援チームを作ることは難しい。

#### \*事業担当課からの補足説明

##### ①区事業「医師による精神保健福祉相談」事業説明及び状況報告

###### （事業説明）

- ・相談者は支援者のみでも可能である。
- ・事前資料がなくても相談可能である。
- ・区外からでも相談可能である。区内であれば社会資源や医療機関と連携が取れるメリットがある。
- ・主治医がいる場合は基本的には主治医に相談することが原則であるが、一般的な相談であれば相談は可能である。

###### （状況報告）

- ・継続的に治療できていない、病識なく初診もできておらず体調を崩して相談に来るケースが多い。
- ・相談を受けても、本人に病識がないことが多く、急激に状況が変わるケースは少ない。
- ・支援者からの相談において、支援者がどのようなスタンスで本人と関わればいいのか、また、支援者からの支援が行き詰った際の支援の仕方を確認してもらうなど、支援者支援の後押しとして利用してもらいたい。

～検討結果～

**\*①区事業「医師による精神福祉相談」の周知について**

- ・周知ビラは区事業担当が作成を担う。

**\*③「精神科医を含む専門家によるチーム」について**

- ・費用捻出や精神科医の協力が難しく今後の検討はしない方向とする。

→ 次回以降に向けて検討しておくこと

- ① 区事業「医師による精神福祉相談」周知ビラ配布・共有と周知方法

**【第5回】令和4年5月19日（木）15:45～17:00**

**\*①区事業「医師による精神福祉相談」周知ビラの配布・共有と、周知方法の検討**

**\*周知方法等の検討**

- ・作業部会の所属団体で周知できる機会や場所を調査、検討していく。  
(区事業担当からの報告)
- ・ホームページに掲載し、積極的に周知していく。  
作業部会委員へ周知ビラを送付し積極的な活用につなげる。
- ・各関係機関の研修や会議等を活用し、区事業担当が出向いて説明を行う。
- ・年度末を目途に周知について効果測定を行い、効果的な周知方法を検討する。

→ 次回以降に向けて検討しておくこと

- ① 区事業「医師による精神福祉相談」の周知活動結果
- ② 「支援者を支援するチーム作り（精神科医師なし）」

## 【第 6 回】令和 4 年 6 月 22 日（木）14:00～16:00

- \* ①区事業「医師による精神福祉相談」各関係機関による周知結果の共有
- \* ②「支援者を支援するチーム作り（精神科医なし）」の検討

### \* ①区事業「医師による精神福祉相談」各関係機関による周知結果

- ・居宅介護支援事業者連絡会、民生委員児童委員協議会、区内交番へビラの配布及び周知の実施
- ・空き状況についてケアシステム推進会議作業部会の関係先、団体に情報提供を開始する。

### ～主な意見～

#### \* ②「支援者を支援するチーム作り（精神科医なし）」について

- ・どのような場面で支援に困ったり行き詰ったりしているのか求める具体的な支援を把握する必要がある。
- ・研修や勉強会、グループワーク等でスキルアップしながら、支援者同士で顔の見える関係性を作ることも必要となる。  
事例があれば事例を用いた研修会の実施について検討してはどうか。
- ・支援者が支援方針の困りごとを、MCS やメンバーリストなどのネットワークを使って発信し、多職種からの意見をもらい、支援の行き詰まりなどを解決につなげる仕組みを作ってはどうか。

### ～検討結果～

- \* ネットワークを利用したツールの検討を深め、MCS (MedicalCareSTATION) の活用を試行する。併せて活用のルール作りも必要であり、今後検討していく。

#### MCS (メディカルケアステーション) について

全国の医療介護の現場でご利用されている**地域包括ケア・多職種連携**のための非公開型医療介護連携コミュニケーションツール。全国に18万人のユーザー。作業部会では「相談機能」を使い、メンバー同士で相談や回答をし合い、知識や経験を共有、知識を広げてお互いをより理解し支援することを目的に活用する。

→ 次回以降に向けて検討すること

- ① MCS 活用のルール作り
- ② 事例を用いた研修会の実施について

**【第 7 回】** 令和 4 年 7 月 28 日（木） 14:00～16:00

\* MCS 活用のルール作り

\* 事例を用いた研修会の実施について

～主な意見～

**\* MCS 試行実施の感想**

- ・ チームの人数が多いと、気軽に質問しにくい。
- ・ きちんとした回答を出さないといけないと思い、コメントしづらかった。
- ・ 答えを出さない回答でもよいと思う。
- ・ 解決まで求めなければ意見も出やすくなると思う。
- ・ 情報や意見の集まる場となってもよいと思う。
- ・ 相談に乗ってくれる人、誰に相談すればよいか、などの呼びかけでもよいと思う。
- ・ 匿名でもよいのであれば質問意見が出やすくなると思う。

**\* 事例を用いた研修会の実施について**

- ・ 地域包括支援センターにて多職種合同連絡会「～援助関係を作りにくい人への支援について～&多職種交流会」の開催について情報があり、作業部会メンバーが参加して、今後の検討の参考にしてはどうかとの意見があった。

～検討結果～

- ・ MCS 活用のさらなるルール作りの検討

→ 次回以降に向けて検討すること

- ① MCS を匿名で発信した後の状況確認とルール作り
- ② 事例検討を用いた研修会の実施について検討

## 【第 8 回】令和 4 年 8 月 25 日（木）14:00～16:00

- \* MCS 利用のルール作りと今後について
- \* 事例検討を用いた研修会の実施について

### ～主な意見～

#### \* 匿名で発信した後の MCS を活用してみた感想

- ・匿名での投稿は当初質問がしやすい反面、具体的な相談となれば名前を表示してやり取りした方がより深く相談できる場合もある。  
その場合、匿名相談者に対して、回答者から電話の相談に切り替えられるよう回答者の連絡先を表示していく方法で相談がつながっていくのではないかと。
- ・回答者が匿名投稿できる機能はないことが判明した。

#### \* 事例を用いた研修会の実施について

（「～援助関係を作りにくい人への支援について～&多職種交流会研修」に参加した感想）

- ・グループワークで顔の見える関係性が築け、横の繋がりが持てたことが有効であった。
- ・名刺交換や自分独自のチーム作りができて困ったときに頼れる相手が増えた。
- ・事例を共有できたことで、抱え込んでいた悩みが解消された。
- ・すでに各関係機関で支援者支援の研修や連絡会が実施されているが、それらをすべて網羅した研修一覧をまとめることで、多くの支援者が参加できる機会を作ることにつながるのではないかと。

### ～検討結果～

#### \* MCS（ネットワークを使った支援者支援）を令和 4 年 8 月 25 日から開始した。

#### グループ名：都島区高齢者精神疾患等困りごと共有部屋

相談内容：都島区在住の高齢者や高齢者に影響する家族の相談（精神疾患か認知症かどうかわからない時でも相談可能）

#### ルール・相談の方法：（随時必要に応じて更新）

- ・投稿欄ではなく、相談の欄で相談する。
- ・匿名で投稿した場合は回答があったのちのやり取りも匿名での返信となる。
- ・詳しい内容の相談は匿名でない方が意見は出しやすい。直接電話などでの相談に移行することも可能である。ケースの個人情報には記載しない。
- ・スクリーンショットなどを使用した転載は不可とする。
- ・管理者の異動があれば管理者の所属団体で引継ぎを行ったうえで随時更新する。
- ・相談に対して回答者に回答の責は問わない。あくまでも相談者の参考意見としておく。

#### 相談の例：

- ① 一問一答式での使用も可能 ②事例の相談でもよい ③相談先の相談も可能

**その他：**

- ・MCS グループの管理者は、作業部会のメンバーとする。(メンバーが交代した際は、所属団体に引き継ぐ)
- ・個人情報の記載があった場合は、管理者が個人情報を削除する。
- ・グループへの招待については、支援者から管理者に相談があった場合や支援者が管理者の参加する研修に参加があり、管理者と顔の見える関係性のある支援者に対して、管理者がグループの情報提供を行うと共に、招待をする。
- ・管理者が、グループ招待に迷った際には、管理者間で相談できるよう管理者用のグループを作成。

**\* 事例を用いた研修会の実施について**

- ・年度末までに作業部会の所属団体に、会員以外も参加できる研修等を集約し、都島区として、イベントカレンダーのような研修一覧表を作成する。

## 「みやこねっと」作業部会報告と今後の方向性

### ① 区事業「医師による精神保健福祉相談」の周知、活用

精神科医師  
精神福祉相談員 → 本人家族  
支援者

#### 周知の拡大

- ・事業周知のための周知ビラの作成及び配布。
- ・周知先は、作業部会メンバー所属団体をはじめ、民生委員会、研修会において周知。
- ・区ホームページへの掲載

→ 今後もさらなる事業の周知を広げ、空き情報などを積極的に情報提供し、相談窓口の有効活用を図る。

### ② 支援者を支援するチーム作り（精神科医師なし）

多職種の支援者 → 支援者

#### ネットワーク（MCS）を活用した支援

- ・支援者が支援方針の困りごとを、MCS を使って発信し、多職種からの意見をもらい、支援の行き詰まりなどを解決につなげる仕組みの運用を開始。

→ 今後、ルールの見直しを行いながら、有効に活用できるよう運用していく。

#### 事例を用いた研修会の実施について

- ・事例を用いた研修やその他関係する研修を「都島区の研修一覧」としてまとめることで、多くの支援者が参加できる機会を作ることに繋がり、支援者のスキルアップ及び相談しやすい関係作りを目指す。

→ 年度末に向けて、研修一覧の作成を予定。

### ③ 精神科医を含む専門家によるチーム作り

精神科医師  
専門職 → 支援者  
本人家族

上記の①②により、支援者の相談や助言ができる体制作りを整備していくこととし、③の検討は行わないこととした。